

# 金曜ピラ

発行2021年(416号)

7月21日

次回は8/6

## もう原発やめよう！

## スペースたんぽぽ

## 学習会・デモの日程



## たんぽぽ舎

TEL 03-3238-9035

FAX 03-3238-0797

Mail: nonukes@tanpoposya.net

〒101-0061

東京都千代田区神田三崎町  
3-1-1 高橋セーフビル1F

原発廃止ひと筋32年・たんぽぽ舎は皆さんの会費とカンパで運営されています。会員になれる方歓迎！  
(たんぽぽ舎の会費は6ヶ月6000円、月1回ニュース発送) 郵便振込 00180-1-403856 (加入者名:たんぽぽ舎)

### 8月4日(水) 2つの抗議行動にご参加を！

#### ★ 日本原電本店抗議行動 (JR秋葉原駅昭和通り出口より徒歩7分)

主催:とめよう! 東海第二原発首都圏連絡会/協力:再稼働阻止全国ネットワーク

時間 17:00~18:00(夏時間です)

#### ★ 「第95回東電本店合同抗議」 時間 18:45~19:45(夏時間です)

よびかけ:経産省前テントひろば/たんぽぽ舎 賛同:東電株主代表訴訟など139団体

### 8月20日(金)「原発いらない金曜行動」(首相官邸前) 第3回

18:30より19:45

多くのご参加を！

7/16(金)第2回「原発いらない金曜行動」は290人の参加で開催されました。

「フクシマは終わっていない!」「原発いらない!」「放射能汚染水を海に流すな!」

「老朽原発再稼働するな!」「東海第二原発うごかすな!」...

「毎月第3金曜」に開催。9月は17日(金)、10月は15日(金)。

### 7~8月の学習会・行動案内 参加歓迎!

(学習会は「スペースたんぽぽ」)

7/24 (土)	学習会 講座 No692	<b>東海第二原発運転差し止め水戸判決 今後の原発裁判に向けて</b> 講師:後藤政志さん(元原子炉格納容器設計者) 上岡直見さん(環境経済研究所代表) 13:30~17:00 参加費:800円 予約必要です
7/27 (火)	学習会 講座 No700	<b>廃止をめざして!とことん学ぼう土地規制法とはなんだ?</b> 講師:馬奈木巖太郎弁護士(参議院内閣委員会参考人・ 福島原発事故生業訴訟弁護団) 18:30~21:00 参加費:800円 予約必要です
8/4 (水)	抗議 行動	<b>とめよう! 東海第二原発20年運転延長・再稼働許すな!</b> <b>日本原電本店抗議行動</b> (JR秋葉原駅昭和通り出口より徒歩7分) 時間 17:00~18:00(夏時間です) 主催:とめよう! 東海第二原発首都圏連絡会/協力:再稼働阻止全国ネットワーク

# 破綻した柏崎刈羽原発再稼働 セキュリティ崩壊の東京電力

山崎久隆(たんぼぼ舎共同代表)

## 規制委が東京電力を行政処分

原子力規制委員会は東電に対し、柏崎刈羽原発の核物質防護不備問題等に関し、原子炉等規制法に違反しているとして核燃料の原子炉装填など「核燃料の移動を禁じる是正措置命令」を出した。これで原発の運転は不可能になり事実上、運転禁止命令に準ずる処分だ。

規制委は4月7日までに東電に対し弁明書を提出するように求めていたが、東電はこの日、弁明を行わないとの回答を行ったことで処分が確定した。

命令が出された背景にあるのは、原発の敷地内への侵入を監視する「侵入防止装置」が、長期にわたり

故障したまま放置されてきたこと、東電が行っていた「代替措置」が、侵入防止の機能を果たしていないことが規制庁の抜き打ち検査で発覚したために、規制委に積み重なっていた東電不信が一気に爆発した格好だった。

東電では、今回のようなセキュリティシステムの崩壊状況を放置してきたことだけでなく、その他にも多くのずさんな対応が目立って発生している。

これまでで分かってきたことは、原発の許認可手続が進むにつれて東電の対応の放漫さ、ずさんさが際立っていったことだ。

## 地元同意なしに「燃料を装荷する」と東電

東電は昨年9月25日に規制委に提出した工程表において「原子炉起動前の検査完了時期」を「2021年4月」と記載していた。この「使用前事業者検査」においては核燃料を原子炉に装荷し原子炉を起動する。ところがその際には、地元同意は不要との立場を表明していた。今年春の実施を計画していた「使用前事業者検査」では、年末まで安全対策工事を進め、その後設計通りの機能が備わっているかを調べることになっていた。

しかし、新潟県などが再稼働を認めなければ、運転の見通しが立たない原子炉に燃料を置き続ける状況になるため、安全上も大きな問題が生じる。

常識的には、地元自治体の同意がなければ再稼働に必要な燃料装荷、起動などは行わないものだが、東

電は今年6月までにこれらを含む使用前検査を全て終了させ、自治体からの同意があったら直ちに原発を再稼働することが可能な状態にすることを表明していた。

これは他では見られない拙速ぶり。さすがに規制委の更田豊志委員長も難色を示していた。「普通に考えれば、起動の予定が立った上で(燃料)装荷などの手順が進んでいく」ものであり「(地元同意という再稼働の)予定がたっていないのに、先に装荷するというのは事実上ないと思う」と東電の姿勢に疑問を呈していた。さらに「燃料はやっぱりプールにあった方が(いい)」と、安全上の問題も指摘。(朝日新聞20年10月9日より)

規制委は今回の是正措置命令で、この核燃料の移送を禁止したのである。

## 東電に対して原発の運転適格性を問うべきだ

東電が原発の運転者として適格かどうかは、柏崎刈羽原発6、7号機の新規制基準適合審査を申請した17年から大きな問題だった。

東電は福島第一原発事故の後始末に責任を持つ会社だ。再稼働や、それに伴う事故リスクに対処できる力があるのならば、被災者への賠償を誠実に実行し、

原発事故現場の安全性を確保するべきだ。

しかし東電が賠償金(現在は交付国債として廃炉支援機構から公布された税金が投入されており、東電はこれを返済することとされている)や廃炉費用(東電が発行した株式を国が買い取ることで資金を調達し、将来は株の値上がりで株の売却益から廃炉費用に要した資金を回収する予定)が、いずれも東電の収益から資金を得るとしていることから、柏崎刈羽原発7号機を再稼働し、年間750億円の利益を増やすことで、必要な資金を稼ぐとした仕組みに、最大の問題があった。

東電が最初に柏崎刈羽原発の再稼働を組み込んだ再建計画(総合特別事業計画)を明らかにしたのは2015年。10月に6,7号機が順次再稼働した場合、1780億円の経常利益を見込むとした。これは融資先の金融機関向けに示されたのだが、これが実現可能だと思う関係者は誰もいない、異常なものだった。

2019年には「新々総特」と呼ばれる再建計画第二

段を明らかにする。その中では「最速で19年に6,7号機が再稼働、以後順次2~4号機まで再稼働と仮定した結果、17~26年度の10年間平均で、1600億円/年~2150億円/年の経常利益を創出」などとして利益確保を目指すという、当時考えても荒唐無稽なものだった。

また、規制委に対して東電が「廃炉をやりきる覚悟」を文書で表明するなどし、その責任は社長が負う(小早川社長が永遠に社長で居るはずもないのだから空約束以上の何物でもない)とした結果、再稼働の適格性があると規制委は判断し、再稼働が認められたという経緯があった。

しかし、この「適格性」は今回、事実上否定されたことになり、当時の規制委の判断が如何に杜撰で政治的なものだったかが明確になった。すなわち、東電の不祥事を長期間、見逃し続け、全ての許認可手続が概ね終わった後に発覚した規制委の責任も重い。

## 賠償と福島第一原発の安全確保が第一

柏崎刈羽原発の再稼働準備について、東電はこれまでに約1兆1690億円(ただし2019年7月当時の発表)を掛けているとされる。

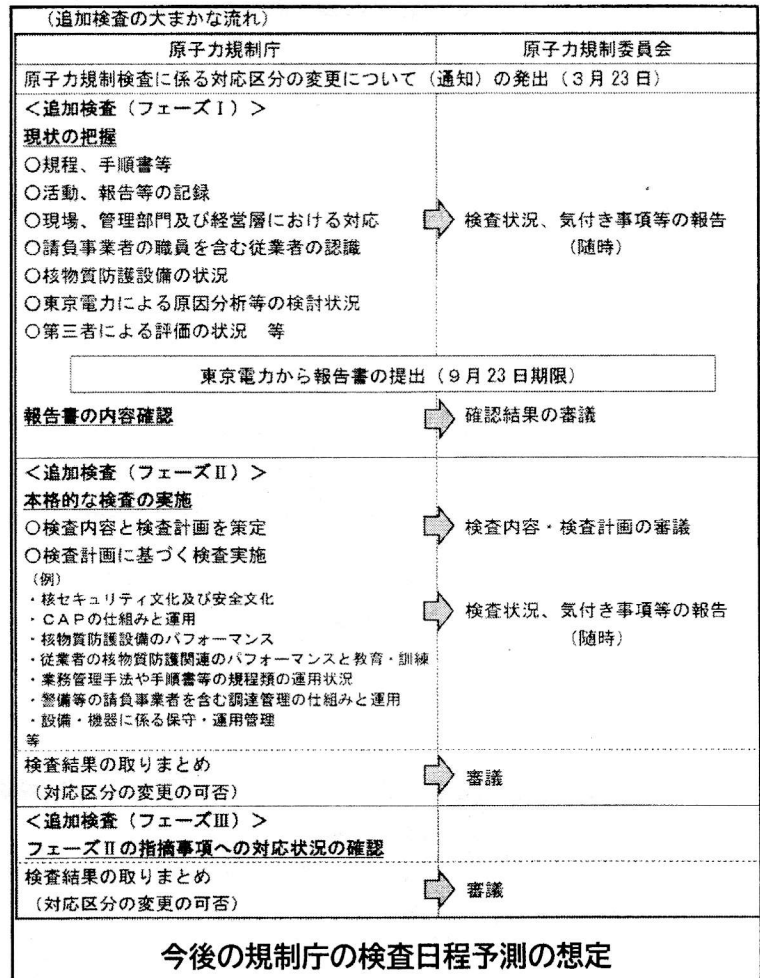
この金額は6月までの福島の賠償額の1割以上(賠償の総額は6月30日時点で10兆251億円・河北新報7月1日)である。それだけの資金を投ずるのであれば、賠償と福島第一原発の安全確保の費用に使えば、現在よりも事態はもっとずっと改善されていただろう。

そうした発想ではなく、原発の再稼働に前のめりになる最大の理由は、株式の54%を保有する国の方針があるため、国策としての原発から撤退できないことも理由だ。

また、福島第一原発事故について廃炉支援機構などにより作成された廃炉ロードマップにおいて30~40年で完了するとして、「デブリの取り出し」を21年から実施することを含む工程の進捗が求められているなど、遅れているとしても現実離れした計画に従っているため、本当に必要なところに資金も人も回らず、効率的な安全対策もできていないのだ。

これらを組み立て直せば、柏崎刈羽原発への無駄な投資はなくなり、福島第一原発についても安全性をもっと高めることができるはずである。

実際には東電に出来ないというならば、東電を解体して新たな組織を作り、移行するほかはない。





## 8月の学習会・行動案内 参加歓迎！

(学習会は「スペースたんぼぼ」)

8/4 (水)	抗議 行動	東電は原発事故の責任をとれ「第95回東電本店合同抗議」 時間 18:45~19:45(夏時間です) よびかけ:経産省前テントひろば/たんぼぼ舎 賛同:東電株主代表訴訟など139団体
8/20 (金)	抗議 行動	「原発いらない金曜行動」(首相官邸前) 18:30より19:45 事故原発放射能汚染水を海へ流すな! 東海第二原発をうごかすな! 賛同人募集中! 9月は17日(金)、10月は15日(金)、 <del>11月は19日(金)</del>
8/21 (土)	学習会 講座	山崎ゼミ 「今一番ホットな原発問題を考える」 14時より17時 お 話:山崎久隆(たんぼぼ舎共同代表) 予約の必要はありません 参加費:800円
8/23 (月)	学習会 講座 No685	岩垂弘さん「8回連続講座」 14:00~16:30 社会運動は社会を変えられるか 戦後76年を社会運動を通じて顧みる 第4回「1970年前後の運動(上)」(反安保、ベトナム反戦闘争、沖縄復帰…) お 話:岩垂 弘さん(ジャーナリスト) 資料代:800円 予約の必要はありません
8/25 (水)	学習会 講座 No695	福島第一原発の廃炉をどうするか 18時より21時 <u>予約必要です</u> お 話:筒井哲郎さん(プラント技術者の会会員、原子力市民委員会委員) 参加費:800円

# TOKYO 2020

日本は、



DEATH  
安全デス!

あくむじゅ



# WELCOME

<出版労連ニュース「未来へ」2020年3月号から了承を得て転載>

作 なつとー